

## チリ 米国のシステムアプローチ承認取消し判決を受けて冷静を促す

[FreshPlaza](#) 2025年10月14日

チリ産生食用ブドウの輸出に関するシステムアプローチに対する米国農務省動植物検疫局 (APHIS) の承認を取消した米国コロンビア特別区連邦裁判所の最近の判決は、チリ国内の農業部門で懸念を引き起こしている。しかしながら、アコンカグアバレー地域の農業界の代表は、同国の植物検疫システムを支えている堅牢な技術的・科学的基盤に対する信頼と冷静さを促している。

この地域の生産者団体と研究機関は、この出来事は米国当局との積極的かつ協調的な技術外交を維持することの重要性を強調するものであると主張した。彼らは、チリが植物検疫リスクを軽減するための総合的アプローチ適用の先駆者であり、システムアプローチが化学物質の使用と農業からの二酸化炭素排出量を削減するという世界的な目標に沿った持続可能なモデルを表していることで一致している。

農学者であり、ロンドン大学で昆虫学の博士号を取得したレナート・リパ氏は、この判決を「残念だ」と呼んだ。同氏は、システムアプローチは、ハマキガ (*Lobesia botrana*) とハダニ (red vine spider mite) に関連する検疫リスクを軽減するための両国当局間の協力的な取り組みの結果であると強調した。同氏は、「輸出向けの生産における根絶レベルの防除を達成するため、輸出された果実にこれらの害虫がいないことを確認する高精度な監視技術を含め、両害虫の防除方法が開発された。これらのすべての措置は、生産と輸出の取組みにおいて従うべき厳格なプロトコルに関連している」と述べた。

リパ氏は、米国農務省による認可の有効性については議論の余地があることを期待している。

バイオセア応用昆虫学センターの創設パートナーであるピラール・ララル氏は、チリが植物検疫管理において得た豊富な経験を強調し、「チリでは、農業部門と研究機関が長い間、検疫有害生物の侵入リスクの評価と軽減に取り組んできた。当センターは、発生率の低い果樹園、継続的なモニタリング、ハマキガのトラップの設置、厳格な検査、及び包括的なリスク調査について認証を取得している。システムアプローチはその有効性が実証されており、例えば柑橘類プロトコルは何年も前から成功裏に運用されている」と述べた。

ララル氏はまた、司法判決は「長年にわたる技術的及び科学的プロセスを無視している」と主張し、「長年にわたる二国間協力、研究、国際基準の遵守に基づく決定が恣意的であると記述されているのは残念だ。チリは専門的に行動し、園地と出荷先の両方での検査を通じて果実に害虫がいないことを確保してきた」と付け加えた。」

生産促進公社 (Corfo) のバルパライソ州持続可能な果樹生産推進事業 (PerfrutS) のプログラムマネージャーであるマルセラ・カリージョ氏は、変化する状況の中で団結を保ち、協力することの重要性を強調した。

同部門の代表者らは、手続き上の措置や控訴の可能性が未定であるため、この判決は輸出の即時停止につながるものではないと説明した。

出典: losandesonline.cl